

平成23年度八重山群島病害虫発生予報第8号(11月予報)

I 11月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	40	30	30
平年並	40	40	40
低い(少ない)	20	30	30

(平成23年10月21日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	23.2	25.8	21.1	156.5	115.8

(沖縄気象台発表・統計期間1981~2010・資料年数30年)

II 11月の発生予報および防除上の注意事項

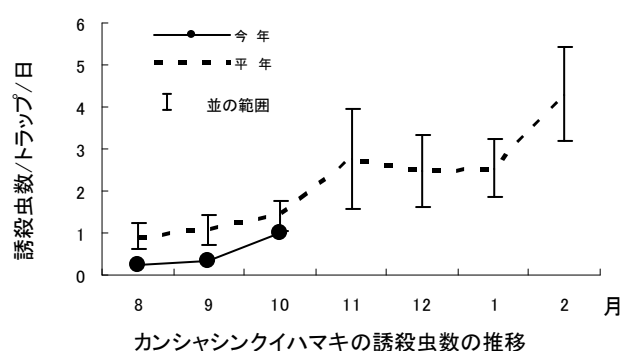
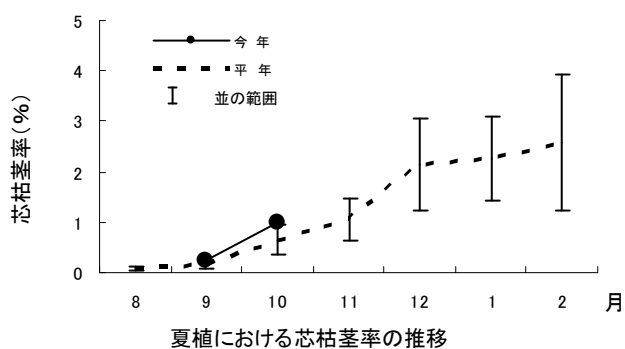
1 さとうきび

(1) メイチュウ類

発生程度： やや多

a 10月下旬の調査の結果、新植夏植での芯枯茎率は1.0%(前年0.1%、平年0.7%)と平年よりやや高かった。また、一部圃場で多発していた。

b 10月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は1.0頭(前年0.8頭、平年1.4頭)と平年よりやや少なかった。



<防除上注意すべき事項>

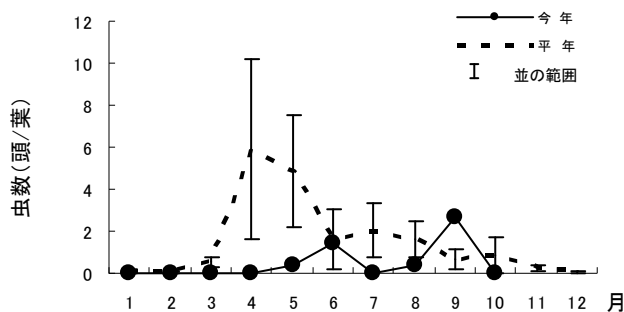
- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 圃場内外のイネ科雑草は本種の発生源となるため、除去する。
- c 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、食入初期の防除を徹底する。
- d 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選定し施用する。
- e 平成23年度病害虫発生予察技術情報第3号(平成23年9月1日付)参照。

2 マンゴー

(1) チャノキイロアザミウマ

発生程度：並

10月中旬の調査の結果、葉当たり虫数は0.1頭未満(前年0.1頭未満、平年0.7頭)と平年並であった。



マンゴーにおけるチャノキイロアザミウマの発生推移

<防除上注意すべき事項>

- 多発すると防除が困難となるので早期発見・早期防除に努める。
- 灌水を行う際、噴霧器などで本種を洗い流すように散水し、密度低減を図る。
- 発生源となる不要な新梢を適宜剪定除去する。
- 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

○ マンゴーハフクレタマバエの防除対策

- 10月中旬の調査の結果、一部施設で本種の多発生がみられた。
- 本種は新葉に産卵し、孵化幼虫は葉に食入しゴール(虫こぶ)を形成する。
- 高湿度時に多発しやすい。
- 被害葉や発生源となる不要な新梢は剪定除去し、圃場外へ持ち出し処分する。

3 かぼちゃ

○ 定植時および生育初期の病害虫防除対策

- 例年この時期には、ウイルス病を媒介するアブラムシ類をはじめ、コナジラミ類、ハモグリバエ類などの被害が見られる。
- アブラムシ類の飛来侵入を防止するため、畦ごとに防風ネットを設置するか、防虫ネットによるトンネル被覆を行う。
- ウイルス病に感染した株は抜き取って圃場外に持ち出し処分する。健全株への感染を防ぐため、抜き取りは他の管理作業の終了後に行う。
- 病害虫の発生源となる圃場内外の雑草を除去する。
- 定植時に粒剤を施用する。